

第8回大会 手に汗握る最終戦

令和6年度第8回麻雀大会を3月27日(木)正午から200(ズー)池袋西口総本店で開催しました。

当日は、各地で桜も咲き始める一方で黄砂も飛来して、良くも悪くも春の訪れを感じる日でした。

年度の締めくくりとなる大会とあって、気温の上昇とともに各参加者のボルテージも上がっているようで、来場時から意気込みが伝わってきました。

今大会は、16名・4卓で開催する予定でしたが、当日になって1名が体調不良で欠席となったので、1卓は三人麻雀を行うという変則的な大会運営となりました。

3回戦目終了時点の得点上位者は、武居部長、原井さん、笠井さん、遠藤さんの順で、最終の4回戦目はこの4人が同卓で対戦しました。

動きの激しい場で、途中までは武居部長が劣勢で、半年ぶりに参加した原井さんと百戦錬磨の笠井さんが一進一退の攻防を繰り広げ、遠藤さんが隙をついて浮上するチャンスをうかがうといった様相で戦いは最後までもつれました。その回は原井さんがトップを取りましたが、武居部長が盛り返して2着になったので、トータルで9ポイント届かず、武居部長が優勝、原井さんが準優勝、笠井さんが3位という結果になりました。

さて、今年度の麻雀大会は終わりましたが、令和7年度も8回の大会と10月には懇親会の開催を予定しています。第1回は、4月24日(木)に開催しますので、参加・入部をご希望の方は健友事務局にご連絡ください。

終わりに、非常に残念な報告があります。

津久井さんが今回の麻雀大会前の3月19日に93歳で逝去されました。

謹んで哀悼の意を表し、お悔み申し上げます。

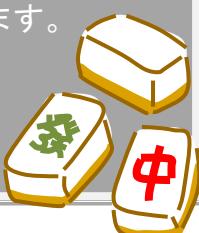
健友麻雀部には約30年間在籍し、90歳を過ぎてからも幾度も大会に参加してひょうひょうとした風情ながら淀みなく的確な判断で練達の技量を見せ、会心の手役ができた際には穏やかに笑みを浮かべていた姿が思い起こされます。

また、津久井さんを語るときに外せないのが俳句で、その一端を記します。

日々の暮らしの中で感じたことを俳句に詠み、令和5年1月の第18回健友俳壇では臨時選者を務めて各々の句意に即した丁寧な選評を行い、令和5年8月には自身の卒寿を記念して第三句集「残照」を刊行されています。

[残照より] 新緑やいのちの光輝かす

[筆者返句] めくるめく光の先は緑一色



どこの卓も真剣とはいえ、アットホームな大会です…



一番奥の卓が三人麻雀（武居部長撮影中で空席）…

